

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ

ファイセック

# FICEC

発行

ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2009年 4月号 (隔月刊) 第102号



## 外国の人たちから料理を学ぶ 「ふじみ野レストラン」が大盛況

上福岡西公民館で、ふじみ野市主催の「ふじみ野レストラン」が開催された。外国出身の人たちから、料理を学びながら、英会話や子育て、ボランティアなどについて話をしようという催し。2月18日：フィリピン料理、2月26日：ベトナム料理、3月4日：台湾料理の日程で行われた。



たくさんの方が料理を学びに参加



やっぱり最後の試食が楽しい



世界地図をバックに料理教室



言葉についても説明



作り方を説明する講師

# 外国人と日本人の地域交流イベント

## 大井社会福祉協議会歳末福祉事業 違うからいい！

を開催

～ みつけよう世界の文化！ 伝えよう日本の文化！ ～

ふじみ野市の大井社会福祉協議会とふじみの国際交流センターの協働により、2008年12月～2009年3月に地域に住む日本人と外国人とが相互交流して楽しむためのイベントが開催された。毎回、大人も子供も活発な交流を楽しんだ。

### 日本文化体験「お正月用 お料理とお花」

2008年12月16日 大井中央公民館

お正月料理づくり

外国人主婦の人たちが、お雑煮、八幡巻き、なます、だし巻き作りに参加。

お正月のお花

それぞれが自由に花器・花を選び、お正月のためのお花を生ける。



### 英語を学ぼう！親子体験

「Let's enjoy English」

2009年1月24日 大井総合福祉センター

フィリピン、ドイツ、台湾出身の人たちが講師となり、ゲームなどをしながら、日本の子供たちに楽しく英語を体験してもらった。



### 子育てサロン「日本の子育て・外国の子育て」

2009年2月20日 大井総合福祉センター

外国籍のママから「日本と母国の子育ての違い」「周りの人たちとのつながり」「気持ちの伝え方」「お友だちや家族の大切さ」について話を聞き、日本のママたちとも、いろいろな意見が交わされた。



## ドイツ国際平和村写真展

2009年3月10日～15日 大井中央公民館

「ドイツ国際平和村」は、1967年にドイツで設立された団体。中東、アジア、アフリカなど、いま世界各国で紛争が起きているが、こうした紛争で重症被害を受け、母国では治療ができない子供たちを平和村に受け入れ、治療やその後のケアを行い、健康になった段階で母国に帰すという活動をしている。写真展では、そうしたドイツ国際平和村の活動状況について伝えている。



## 外国人と話してみよう

「外国と日本の生活や文化の違い」

2009年3月11日 大井総合福祉センター

外国籍の人たちが、地域の民生児童委員を中心とした参加者約32名の人たちと2時間にわたって、さまざまな意見交換、交流を行った。



## 日本の遊び大会

2009年3月21日 大井中央公民館

FICECのスタッフが「昔取ったきねづか」と得意な遊びを披露。お手玉、おはじき、折り紙、百人一首、けん玉、コマなど、参加者はそれぞれのコーナーを回って、日本の遊びを体験。また、後半にはトーナメント式で「はねつき大会」も行われた。



# 高齢者福祉施設でお年寄りたちのお世話 「国にいる家族の面倒を見ているみたい」と話す フィリピン出身の穴沢エミリンさん

「フィリピンでは家族が多くて、お年寄りの人たちともいっしょに暮らします。私はそんななかで育ったので、いま日本の高齢者ケアセンターで働いていても、何かフィリピンの家族の面倒を見ているような、そんな気持ちになります」と話すのは、ふじみ野市に住む穴沢エミリンさん。

エミリンさんはいま、ふじみ野市大井にある高齢者福祉施設「マザーアース」(野溝守理事長)で、1週間に4日、「デイサービス」の担当として働いている。デイサービスは、在宅介護を受けている高齢者に対して、日帰りでさまざまなケアを行う介護サービス。エミリンさんは、施設に来たお年寄りたちの入浴、食事、リクリエーション、健康チェックなどの世話をしている。

こうしたサービスを担当するためには、「ホームヘルパー2級」の資格が必要だが、エミリンさんはふじみの国際交流センター(FICEC)が2005年に文京学院大学地域連携センターBICSとの協働で行った「ホームヘルパー養成講座」を受講して、その資格を取得した。

フィリピンで日系の貿易会社で働いていたときに日本人男性と知り合い、1991年に結婚して来日。以来、日本で家事に子育てにと主婦業に専念していたが、数年前からは子供も大きくなったことから、中学校でのALT(英語補助教員)などで働いていたとのこと。そして、昨年6月ごろから「マザーアース」で介護の仕事をしはじめた。

「FICECでは、日本に来た当時から日本語を教えてもらったり、いろいろわからないことを教えてもらったり、本当にお世話になって

います。ホームヘルパー資格も、FICECがあったから取れました」とエミリンさん。

「施設に来るおばあさんたちが若いころの話を聞いていると、いまのフィリピンとすごく共通点があります。同僚やこうしたお年寄りたちに囲まれて仕事をしていると楽しくて、これまでとは違う自分が見つかったような気がしています」と、いまの仕事がすごく気に入っている様子だ。

(取材・文：内藤忍)



「さあ、体操しましょう」とエミリンさん

## ボランティア活動に ぜひご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、気軽にご連絡ください。

連絡先 TEL.049-256-4290

### 「在留特別許可」って何？

藤林 美穂

#### フィリピン人親子の強制退去問題にからんで

このところ新聞やテレビなどで、フィリピン国籍のカルデロン・のり子さんとご両親のニュースが流れていますね。日本生まれで日本語しか話せない中学1年生ののり子さん。3月13日の報道では、両親はフィリピンに帰国し、のり子さんだけが「在留特別許可」を得て日本で勉強を続ける、という結果になったようです。どうして一家そろって日本で暮らせないのでしょうか。また、のり子さんに出される「在留特別許可」とは何でしょう？

通常、日本にいる外国人は入国の時に入国管理局から「在留許可」をもらって日本に暮らしています。これがない場合、つまり正規の入国手続を経ずに「不法入国」したか、在留期限を過ぎてオーバーステイしている場合は、その事実が警察や入国管理局にみつかり逮捕・収容され、母国に強制送還されてしまいます。しかし法務大臣が特別に在留を許可する（在留特別許可。略して在特という）ことで、日本で暮らし続けることができる場合があります。それは、日本人や正規滞在している外国人と結婚していたり、日本国籍の子どもを育てていたりする場合です。

カルデロン一家は、家族全員がフィリピン国籍でオーバーステイだったので、上記のどれにもあてはまりません。しかし、これまでも何度か家族全員がオーバーステイで一斉に入国管理局に出頭し、在留を許可されたケースもありました。入国管理局がどういう基準で許可を出しているか、外部には明らかにされていませんが、日本で生まれ育った子どもが中学生になり、もはや日本以外で学校になじむのが困難とみなされた場合には在留特別許可が出されるのでは、と支援団体の間では推測されていました。また、日本政府は難民認定をなかなかしないために国際的にひんしゅくを買っているのですが、近年難民申

請をした人に対して、難民認定はしない代わりに在留特別許可を出す、という措置をとることも増えているようです。在留特別許可が下りると、状況に応じて「日本人の配偶者等」や「定住者」などの在留資格が与えられます。

在留特別許可の審査基準が明らかでないと批判を受けたため、5年ほど前から入国管理局は在留特別許可を出したケース・出さなかったケースについて事例をウェブサイトに掲載するようになりました。これを見ると、許可されなかった事例では、当事者が犯罪を犯した、あるいは日本人などと結婚しているとみせかけてその実態がなかったというケースが主に紹介されています。

カルデロン一家の場合、両親が入国した時に使用したパスポートが偽造だったことが響いたように報道されていますが、日本人と結婚した人の場合には過去に偽造パスポート使用があっても在留特別許可がおりています。今回家族を引き裂いてまで厳格に入国管理法を適用した本当の理由が何なのかはわかりませんが、一人で日本に残る決断をした13歳ののり子さんが周囲から十分な支援を受けられることを望まずにはられません。

\* 入国管理局の「在留特別許可の基準」

<http://www.moj.go.jp/NYUKAN/nyukan25.html>

#### 筆者紹介

10年あまりNGOで働いた後、フィリピン人支援グループでボランティアしたり写真の勉強をしたりしつつ昨年行政書士として開業、これから外国人のビザ取得などの仕事を中心にやっていきたいと思っています。どうぞよろしく。

ライフ行政書士事務所

<http://officelife.sakura.ne.jp/>

<http://shigotonichiroku.sblo.jp/>



# 募集

ふじみの国際交流センター

## 日本語教室ボランティア

毎週**木曜日**午前**10時**～**12時**

- ふじみの国際交流センター日本語教室では、外国籍市民のために生活言語としての日本語を教えています。
- 来日したばかりの方へ「これはいくらですか」「～へ行くにはどうすればよいですか」といった日常生活に必要な会話から、日本語習熟度を確認したい、レベルを知りたいという方への日本語能力検定対策まで、さまざまな日本語の勉強を行っています。
- 今、こうした日本語を学びたいという外国籍学習者の数に対して、教える側の日本人ボランティアが不足しています。
- 見学大歓迎です。ちょっとですが学びたい言語のブラッシュアップにもなるかもしれません。
- 教材は日本語教室で用意してあります。

勉強の後のお茶会



教えてあげてください

生活言語の日本語会話

ふじみの国際交流センター

日本語教室 担当/岩田・戸塚

TEL/049-256-4290

センターの日常活動内容を検討する定例スタッフ会議の要約です。

## 2009年1月27日スタッフ会議

出席者：11人

- [1] 2009年初顔合わせ  
スタッフ一人一言。
- [2] 3 / 10 富士見市職員研修について打ち合わせ  
・富士見市在住外国人の状況説明  
・出席予定者：外国籍市民5人、日本人サポーター5人
- [3] 機関誌、ホームページへの協力  
・イベントなどに参加したとき、スタッフができるだけ写真を撮影して、後日、記事化する際の材料とする。
- [4] 各活動についての現状報告  
生活相談・シェルター、日本語教室、国際子どもクラブ、「インフォメーションふじみの」、各語学教室、パソコン教室、国際わいわいクラブ、国際理解講座、子どもと共に育つ親の会など。
- [5] ふじみ野市からの「外国人対象ゴミの出し方説明会」の提案について  
・4月からふじみ野市のゴミの出し方が変わる。現在翻訳版を作成中、翻訳版は各公共施設とセンターに置く。  
・4月以後、センターにおいて外国人対象の説明会開催を検討。
- [6] 主な連絡事項  
・二市一町日本語ネットについての報告  
・NGO ネットについての報告  
・2 / 3 埼玉県立大学保科先生学習会  
・2 / 10 大正大学萩原先生学習会「児童虐待」  
・2 / 22 センター理事会  
・3 / 15 「シニアのためのボランティア講座」

## 2月3日スタッフ会議

出席者：11人

- [1] 医療通訳について  
病院から手術後の医療通訳依頼があった。センターとしてどう対応すべきか。  
主な意見：医療通訳は責任問題が生じたときが難しい / 病院は事前に必要事項を翻訳したものを作成しておくべきではないか / センターとしての体制作りが先ではないか / 現状として病院は切迫した状態であることを知っていてほしい
- [2] 3 / 10 の富士見市職員研修について  
・センターとして問題点をあげ、外国人との断片的な話だけではなく、富士見市における外国人の概要など、外国人の事情についてデータを提示しながら話をしす

る。事前に外国人の概要の資料を配布しておく

- [3] 日本語教室のボランティア募集  
最近の日本語教室は学習者が多く、ボランティアが少ない。  
・ボランティア募集のチラシ、ポスターを作成。  
・HP・機関誌にボランティア募集の記事を掲載する
- [4] 子どもと共に育つ親の会  
2 / 10 「日本の子育て 外国の子育て」のスタッフ・参加者を募集中。
- [5] 会計より  
20年度会費の納入状況が良くない。未納の人への対策：長く会員でいてくれる方には会費納入の意味がわからなくなっているのではないか / 会報送付だけでなく会員のメリットとなるものがあるといい。

## 2月17日スタッフ会議

出席者：10人

- [1] 富士見市NPO団体交流会の報告  
・現在富士見市には14のNPOがある。NPOへの認識は高まっている。  
・各地でNPO団体と行政の交流会が開催されている。  
・行政の趣旨はネットワーク作り、団体の紹介、行政とNPOとの協働、NPOのサポート
- [2] 市民社会創造ファンド「インターンシップ奨励プログラム」について  
・2月中にカリキュラム提出 応募 選考・面接 実施（覚書き）  
・基本プログラムを作成したうえで、学生の来訪曜日や内容の希望を合わせ、検討していく。
- [3] 主な活動内容検討・報告  
・埼玉NGO ネット報告  
・川口市子育て支援課「子育てに関するアンケート調査」の翻訳は完了し納品。  
・ふじみ野市「資源物・家庭ごみの分け方、出し方」は翻訳が終わり、印刷会社と確認作業に入っている。  
・三芳町から健康カレンダーの翻訳依頼がきている。  
・「子どもとともに育つ親の会」今年度の報告  
・3 / 13 大正大学萩原先生の勉強会「多重債務について」

## 3月3日スタッフ会議

出席者：7人

- [1] ふじみ野レストラン(料理と人権)  
2 / 18 フィリピン、2 / 26 ベトナム、3 / 4 台湾
- [2] 大井社協の歳末福祉事業  
3 / 10 ~ 13 「ドイツ平和村写真展」、3 / 10 「外国人と話そう」、3 / 21 「日本の遊び大会」
- [3] 3 / 23 「2市1町国際化推進会議」  
内容：(1)生活相談 (2)生活ガイド (3)その他
- [4] 会計の仕事の分担について  
責任の伴う会計担当の負担を軽減するため、数人で仕事を分担する
- [5] 連絡事項  
・3 / 29、4 / 26、5 / 10 理事会を開催  
・6 / 7 総会を開催

## 3月17日スタッフ会議

出席者：9人

- [1] 3 / 21 「日本の遊び大会」の内容協議
- [2] 市民社会創造ファンドインターンシップ終了報告会の報告  
・学生の目的・テーマに合わせたプログラムを用意する必要がある  
・センターの体制作りが難しい  
5月に学生と面接  
プログラムの考え方（討論）  
・特定の活動に限定するのではなく、最初はセンターの事業内容を理解してもらった上で、色々チャレンジしてもらおう。  
・センターの活動の中心である生活相談を中心にカリキュラムを組めば、毎日どの時間帯に来てても何かしらの活動には参加できる。
- [3] 埼玉県立大学インタープロフェッショナル(IP) 演習をセンターで実施  
・10 / 5(月) ~ 10 / 8(木) 実質2日間の演習  
・参加者：4年生6 ~ 7名  
・実習目的：地域の保険医療福祉の場で、体験を通して連携と協働を学ぶ  
(1)利用者・集団・地域の理解と課題解決のプロセスを体験する  
(2)多領域の相互理解のプロセスを体験  
(3)チーム形式のプロセスを体験する  
(4)この体験を振り返り、意味づけ、自分の課題を見出す
- [4] 来年度もNGO ネット加盟を継続する
- [5] 連絡事項  
・4 / 17 白百合女子大学萩原先生の勉強会「国際結婚について」

センターの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

**活動を担う会員.....正会員**

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

**センターを財政的に支える会員.....賛助会員**

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
 口座名：ふじみの国際交流センター

**ご寄付をいただいた方々**

ご支援ありがとうございます

2006年4月～(50音順・敬称略)

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美 王シャロン 小澤ヴィクトリア 尾高昇 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 金子康子 上福岡教会 候 国際ソロプチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 斉藤彩子 菅山修二 鈴木譲二 堰代仁子 曹圻 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武田和子 立麻医院 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子 東入間防犯協会 馮雪蘭 深見水季夫 三澤真理 村上省三 百瀬滉 森田信子 (有)矢野住研 矢野やすこ

ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります  
 ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

**たくさんのご寄付に御礼申し上げます**

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年以上になります。その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もお支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター(FICEC) 理事長 石井ナナエ

**ふじみの国際交流センター(FICEC)のスクール、クラブ**

<p><b>日本語教室</b>                  「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。                  毎週木曜日                  午前10時～12時                  受講料：無料</p>	<p><b>国際こどもクラブ</b>                  日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。                  毎週土曜日                  午前10時～12時                  受講料：無料</p>	<p><b>英語教室</b>                  隔週水曜日・木曜日                  午後7時～                  受講料：月4回4000円                  第二、第四火曜日                  午後1時～3時                  受講料：月2回2000円</p>
<p><b>中国語教室</b>                  学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。                  毎週金曜日                  午前10時～12時                  冷暖房1回200～300円</p>	<p><b>韓国語教室</b>                  韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。                  毎週月曜日、水曜日                  午前10時～12時                  1回500～1000円</p>	<p><b>子ども英語教室</b>                  6歳から12歳を対象とした英語教室。                  毎週金曜日                  午後4時～5時                  受講料：1回600円</p>

**特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291  
 生活相談専用電話: 049-269-6450

**編集スタッフ**

発行者：石井ナナエ(センター理事長)  
 編集委員(50音順)：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、福田雅伸、山崎友理